

### コロナ禍のほっとニュース特集

## 「私のアトリエ」

委員 富岡 ネム

気付いてみれば半世紀も革の  
アート・クラフトに関わっている。  
革でなくても良かったのかも知れ  
ない。文字で自分の空間を自由  
気儘に埋めつくし、空想と想像  
の翼を翔かせ、フィクションにのめ  
り込んだ時の様に。

アトリエを建てたのはロゴマー  
クにもあるように一九七五年。  
染色、彫金、織物、七宝焼、木  
工、革、布等の各作家たちの作  
品を展示兼販売するサロンにし  
たかったからだ。そのうちギター  
弾きやお菓子作りのお姉さんな  
ども参加し、アトリエは子供から  
大人まで近隣の憩いの場になっ  
ていった。

狭い空間に椅子を並べ語り合  
うのはいいが、いつの間にか人生  
相談や学生が進学相談に顔を出  
すようになった。やれやれ当初描  
いた芸術サロンのイメージは何処  
に行つたの。ある時どこから聞い  
たか新聞社が「女性経営者訪  
問」取材にやってきた。若い頃の  
私とアトリエの写真が載つた新聞  
は今でも家の隅にある筈だ。夢  
は所詮夢、現実に引き戻されて  
サロンは本来のアトリエになり、  
教室にした。

革の教室は区民センター、文  
化センターで既に開講していたの  
で、週の殆どが教えることで埋ま  
った。そして教わった。



仕事中

今、私達を疫病が襲い、最新  
兵器が私達の空を飛び交つてい  
る。パンドラの箱の蓋をチラつか  
せながら。これでは創作の翼は危  
なくて飛翔出来ないではないか。  
せいぜいアトリエにミサイルが落  
ちてきませんように。

## 布絵との出逢い

準会員 片岡 美智子

他界した母の、たくさん  
の着物。このような着物に息を吹き  
込み、新たな作品として残した  
いと常々考えていたところ、古い  
着物や帯を使った布絵作家に出

会い、二年間勉強。その後は独学  
で作品作りに励んできました。  
作品をいろいろな方に見てほし  
いと思うようになり、個展を何度  
か開催。そこで新日美を紹介さ  
れ、入会、出展、賞まで頂き、おか  
げさまで、作品作りに意欲が湧き  
ました。  
作品作りは下絵を書き、布を選  
び、伸び止めに裏芯を貼る。裁  
断、アイロンで縫代を折り込んだ布  
切れを一つ一つ縫い合わせて一枚

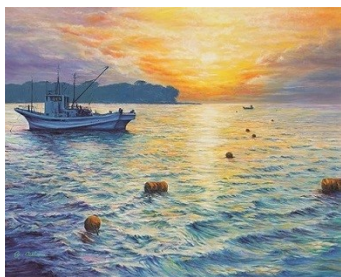


第42回新日美展「芸妓」(左)



第43回新日美展「舟遊び」

の絵が完成。とても根気のいる作  
業ですが、作品の誕生に心が踊り  
ます。



文部科学大臣賞 上原芳信  
「夕焼け・希望の海(戸田港)」  
油彩 F100



## 上原芳信さんの作品 月刊美術に掲載!

二年前から、成田なごみギヤ  
ラーにて、五月の個展の予約をし  
てありました。コロナ終息の兆しが  
ないので中止も考えましたが、こん  
な時こそ作品を見ていただき、心  
を癒してほしいとの思いから開催  
を決意。  
また、会社を退き、お教室を持  
つ予定でもありますが、様子を窺  
いながら夢を叶えたいと思いま  
す。

月刊美術 2022年3月号に、第45回記念新日美展  
文部科学大臣賞受賞作品が掲載されました。